

あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和2年3月31日 226号
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



今年度も元気に過ごせました。

新型コロナウイルス

園長 天良 昭彦

記録的な暖冬が過ぎ、春を目前にしながら、新型コロナウイルスの感染拡大で世界中が揺れています。

昨年末に中国の武漢市内で原因不明のウイルス性肺炎が広がっているとの報道でしたが、新年の年頭の職員会議では若干その話題に触れた程度で、例年通りインフルエンザ対策の継続を確認したことを覚えています。それから約三カ月。日々状況は悪化し、今や世界各国に感染が拡大、東京都では感染爆発の重大局面と表明されました。その感染の速さと規模に驚くとともに恐ろしさを感じています。この「あすなる」がお手元の届く頃にはいったいどのような状況になっているのでしょうか。

駿豆学園のような入所型の施設において、感染性疾患は最大の脅威です。まして未知のウイルスと言われる治療法が確立されていない現状では、施設内での感染者の発生は集団感染の大きなリスクとなります。

内部でウイルスが発生することはないので、外部からの持ち込みをいかに遮断するかが肝心であり、面会や来客等を極力制限させていただいています。

また、職員は私生活においても、食事会や集会等への参加、旅行や公共交通機関の利用等を極力避けるよう行動を自粛しています。

三月の三連休明けには世間の自粛ムードが若干緩んだように感じ、感染のリスクに対する認識が人により温度差があることが気になるところです。

静岡県では現時点で三名の感染者が確認されていますが、伊豆地区を含む県東部地区では確認されていません。しかし、国内感染者数は増加の一途であり、感染経路が確認できない感染者や、無症状の感染者が存在することとで安心はできません。特に我々施設職員は、利用者の安全と健康、さらには生命を託されていることを自覚しなければなりません。ですが、何もかも自粛することで、利用者の生活の質を著しく低下させることのないよう留意したいと思っています。この状況下で、どのような活動や企画を工夫し提供できるか、職員の腕の見せどころです。

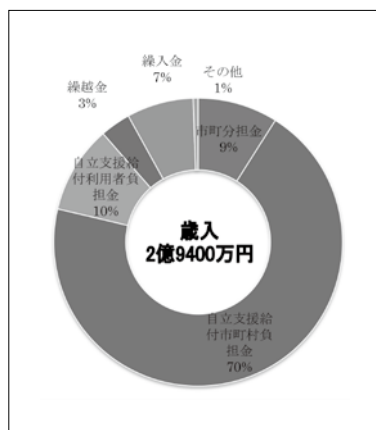
本誌面で看護師もコメントしていますが、笑いが免疫力を高めることは科学的にも証明されているそうです。前向きな気持ちや笑顔が何よりのワクチンと言えます。危機感を持ちつつも、笑顔で令和元年度を締め括り、新年度を迎えたいと思います。

令和二年度

当初予算について

総務課長 山口 深志

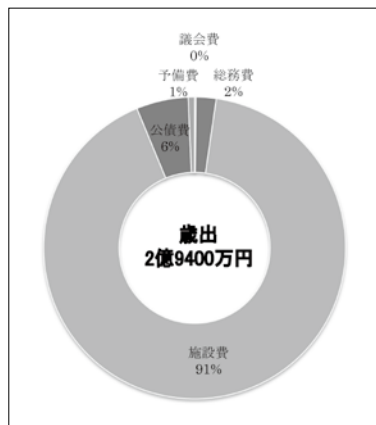
令和二年度当初予算が、去る令和二年一月二十日の組合議会において可決しましたので、ご報告いたします。一般会計予算は、歳入、歳出それぞれ二億九千四百万円を計上し、前年度当初予算と比較すると五百万円、約一・七%の増額となりました。主な歳入を説明します。駿豆学園を構成している九市町に負担しているただいっている市町分担金を前年度と同額の二千六百三十八万円計上しました。また、駿豆学園の収入の約七割を占める、自立支援給付市町村負担金を前年度と同額の二億五百万円計上しました。令和三年度の次期報酬改定までは、本体報酬、加算、共



に安定した収入を見込んでいます。

令和二年度の予算計上において歳入不足が見込まれるため、基金繰入金を二千二百万円計上しました。その他の歳入は、例年並みの計上です。

次に主な歳出を説明します。議会費、公債費は前年度と同額を計上しました。総務費については、会計年度任用職員制度開始に伴い、賃金が皆減し、システム改修や、施設の長寿命化のための、短期・長期修繕計画作成委託等により新たに委託料を計上したところ、四百四十万円の減額となりました。歳出の九十%以上を占める施設費について、会計年度任用職員の報酬を新たに計上しました。各節の増減と合算すると、前年比九百四十万円の増額となりました。近年、予算額が微増しています。ご利用される皆さんの安心・安全のため、適正な予算執行に努めます。



二〇二〇年 三月

支援課長 青木 あけみ

二〇二〇年、今年の干支はねずみですが、職場に年男年女が四つの年代でいることがわかりその人達で「あなたも！私も！」と盛り上がっていました。新年「今年はねずみのようにフットワークの軽い動きの多い一年にしたいと思います。」と言いつつも依然と歩く距離は少なく運動不足は継続中です。学園全利用者、職員が毎年秋に血液検査をしています、自分は常に生活習慣病予備群の一步手前くらいにすることが多く、結果後には気持ちを入れ替えて次回こそは余裕でクリアしようと強い思いを抱きます。しかし時間が経つと残念なことに「ま、いいか」と自分に甘い気持ちが継続します。そして検査が近づくにつれて焦り後悔の繰り返しで、ほんと根性がありません。

食べる事といえば駿豆学園のある伊豆市には美味しい椎茸や山葵があります。生椎茸や生山葵は本当に香りも良く美味しいのですが、土産店に並んでいる椎茸茶（顆粒又は粉末）もなかなかの優れものです。お茶以外にも、きのこの炊き込みご飯に出汁で利用すると香り味共に美味しく頂けます。但し食べ過ぎには注意が必要です。

三月二十六日のやよいの会で今年度の行事予定がすべて無事に終了しました。利用者に聞いてみました、今年度楽しかった事、印象に残った事がありますか。「おやつの買い物・クリスマス会の全部が楽しかった・ハンドスタンプをやった（ハンドスタンプアートプロジェクトに参加）・いろんな場所に外出で行けて楽しかった・七月リフレッシュツアーに行った事・リフレッシュツアーの横浜でクルーズ船が気持ち良かった・氷川丸のライトアップが奇麗だった」との感想がありました。計画担当者には、嬉しい感想です。四月からも楽しんでいただける計画を考えています。



やよいの会のプログラム作成しています

負けない身体作りを しませんか

看護師 山田 美津子

新型コロナウイルスの出現で生活に様々な支障をきたし、予防も治療も確立していないので、不安の日々が続いています。そんな時こそ、自分自身で身を守るために、免疫力を上げて強い身体作りをしませんか？自分の身体の中にあるナチュラル・キラー細胞を働き者にして、免疫力を上げるのです。毎日、簡単に、続けられる方法を二つ紹介します。

① 白湯をこまめに飲む。

刺激が少なく暖かい飲み物で体温を上げながら、血流を良くすることで免疫力の一端を担う白血球やリンパ球の循環を良くするのです。二時間毎にコップ一杯程度飲むと良いです。

② たくさん笑うこと。

笑うと、善玉の情報伝達物質が大量に分泌されて免疫力を上げてくれます。しかも、無理に笑いを作り出しても分泌されるそうですよ！

笑うと脳内でリラックスするα波が増え脳内の血行が良くなりストレス解消にも良いです。これからまだ

まだ何が起るかわからない時代を乗り越えるためにも免疫力を上げて元気に過ごしましょう。

給食だより

栄養士 鍵山 智美

令和という新しい年号に変わった今年度も無事に過ぎようとしています。昨年の九月と十月には大きな台風が各地に甚大な被害をもたらしました。学園も例外ではありませんでした。九月の台風では、停電によりエアコンなどの空調設備が使えなくなり、厨房では食器洗浄機や食器乾燥機などの大型の機械類の使用ができなくなりました。幸いにもガスは使用できたため、急遽朝食で使用する食器を使い捨ての物に変更し、無事に食事を提供することができました。

毎日三食を三百六十五日提供することは大変なことです、利用者の皆さんの食事がどんな理由にせよ、一食欠けてしまうことはあってはならないことです。どんな状況に直面しても食事の提供ができるよう、常に危機感を持ち、業務に励んでいきたいと思っています。

大地班

生活支援員 山田 欣恒

大地班は、木工作业を主な作業として取り組んでいます。

完成した作品は、各市町のふれあい広場で展示、販売を行っています。しかし、今年度は、台風による被害で中止になることが多く、自ら販売する機会が減ってしまいました。

来年度も、皆さんとふれあい、喜んでもらえるようにと、一生懸命、作業に取り組んでいますので、楽しみに待っていてください。



みんなで掃除

あおぞら活動

生活支援員 金刺 聖子

利用者の皆さんが元気に過ごせるように、今年度も歩行訓練を中心に活動しました。

晴天の日には、日光を浴び、屋外歩行を行い、ドライブ先での散策では、季節を感じる事ができました。雨の日は音楽を聴きながら廊下歩行をしたり、簡単なゲームや運動をしたりして楽しみました。

今後も楽しく活動できるように、あおぞら活動に取り組めます。



どこまで高くなるかなあ

みんな大好き「外出活動」

生活支援員 出川 奈央

毎月利用者が楽しみにしている外出活動では、事前に行きたい場所、食べたい物等を聞き出来るだけ皆さんの希望に添えるよう計画してきました。綺麗な景色や美味しい物、始めて訪れる場所に目をキラキラさせて喜び楽しむ姿が沢山見られ、笑顔いっぱいの外出活動となりました。今後も皆さんの気持ちに寄り添い安全と安心を心掛け楽しい外出活動を実施していきたいと思っています。



絶景でおやつ



花より団子



桜の前でハイポーズ

音楽クラブ

生活支援員 久保田 さおり

音楽クラブでは、豊かな生活を感じられるよう、利用者一人ひとりに合った音楽活動を行っています。歌を楽しむ人、楽器に触れ音を楽しむ人、今年度も皆で音を楽しみました。又、運動会でのリズムからはじまり、各行事に向けて、一生懸命練習を行いました。行事当日、発表後の大きな拍手が聞こえると、嬉しさと達成感で、皆さんとても良い表情をしていました。



スポーツクラブ

生活支援員 松本 明美

今年度も利用者の方の体力に合わせて身体を動かせるよう取り組んできました。ボールや縄跳びを使用し、楽しみながら行えるよう工夫しました。公園に出掛けて、外の空気を感ぜながら行う事もありました。オレシジマソンでは千メートル、千五百メートルに加え、初めて五百メートルの部に参加し、全員が完走する事が出来ました。来年度も無理せず楽しみながら活動をしていきます。



美術クラブ

生活支援員 土屋 智也

今年の美術クラブの活動はハンドスタンプや浜石絵など各利用者が楽しみながら行えるような作品作りを行いました。

初の挑戦として愛護ギャラリー展に絵画以外にも工芸作品を作成し出展しました。作成した利用者も楽しそうに作る事が出来ました。また、その他の作成した作品も文化祭やクリスマス会に思い出に残るよう展示しました。



おやつクラブ

生活支援員 大木 章敬

今年度も、利用者さんの希望や季節に合わせて活動を行いました。

春は利用者さんの得意な「フレンチトースト」や「ホットケーキ」を、夏は定番の「かき氷」、冬には「どんどん焼きのお団子」を作りました。どれも好評でお菓子を作っている時も、食べている時も、とても楽しんでいる様子でした。

来年度も、利用者さんの期待に添える活動にしていきたいです。



やよいの会

生活支援員 福田 敏行

今年度最後の行事「やよいの会」が三月二十六日に行われました。会場となる食堂は綺麗に装飾され、利用者の皆さんは、テーブルに並べられた料理の前に、開始時間を楽しみにしていました。

開会宣言後に、みんなで昼食を摂り、好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて踊ったりしました。職員と利用者さんの笑顔がたくさん見られたやよいの会でした。

スイーツバイキング



どれにしようかな

お世話になりました

生活支援員の高橋和志さんと調理員の藤井僚子さんが退職となりました。利用者・職員共に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



生活支援員
高橋 和志

平成十五年から駿豆学園で勤務し今年で十七年間の時を利用者さん、スタッフの皆さまと過ごさせて頂きました。慣れない職場に戸惑いながらも先輩方のご指導や、利用者さんの笑顔でこれまで精いっぱい務めることができたと思います。

振り返ると沢山の経験をさせて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。そして、お世話になりました。



調理員
藤井 僚子

三年十ヵ月前に入職し今日までに苦しい事や楽しい事たくさんを経験できた事は、私を大きく成長させてくれた職場だと思っています。駿豆学園の利用者の皆様並びに職員の皆様今まで本当にありがとうございました。

建設工事現場に壁画アート

NPO法人アートコネクトしずおか様、土屋・中豆・イズケン特定建設工事共同企業体様、小野建設株式会社様のご協力のもと伊豆市加殿の新こども園建設工事現場と伊豆市役所土肥支所に利用者さんの絵画が壁画アートとして設置されました。



ボランティアのお願い

学園では、縫い物や草取り、その他の軽作業等のできる方を募っています。短い時間でも結構ですので、駿豆学園にお出掛けいただけませんか。お待ちしております。

ショートステイのご案内

在宅の方で、ご家族のご都合により、ショートステイを希望される方は、お気軽にご相談ください。問い合わせ相談は、随時受け付けています。

ふれあい広場

― 善意を寄せられた方々 ―

- 八木沢郵便局様
- 土肥神社様
- (株) 伊豆恋人の里不動産様
- 株式会社 堂ヶ島マリン様
- 金刺 甚一郎様

皆様のご厚意に御礼申し上げます。

【お知らせ】

本号より駿豆学園ホームページであすなろを閲覧出来るようになります。アドレスは

www.sunzugakuen.jp/です。

ぜひ御覧ください。

編集後記

今年度も皆様のご協力により、楽しく過ごせることができました。新年度もよろしく願います。